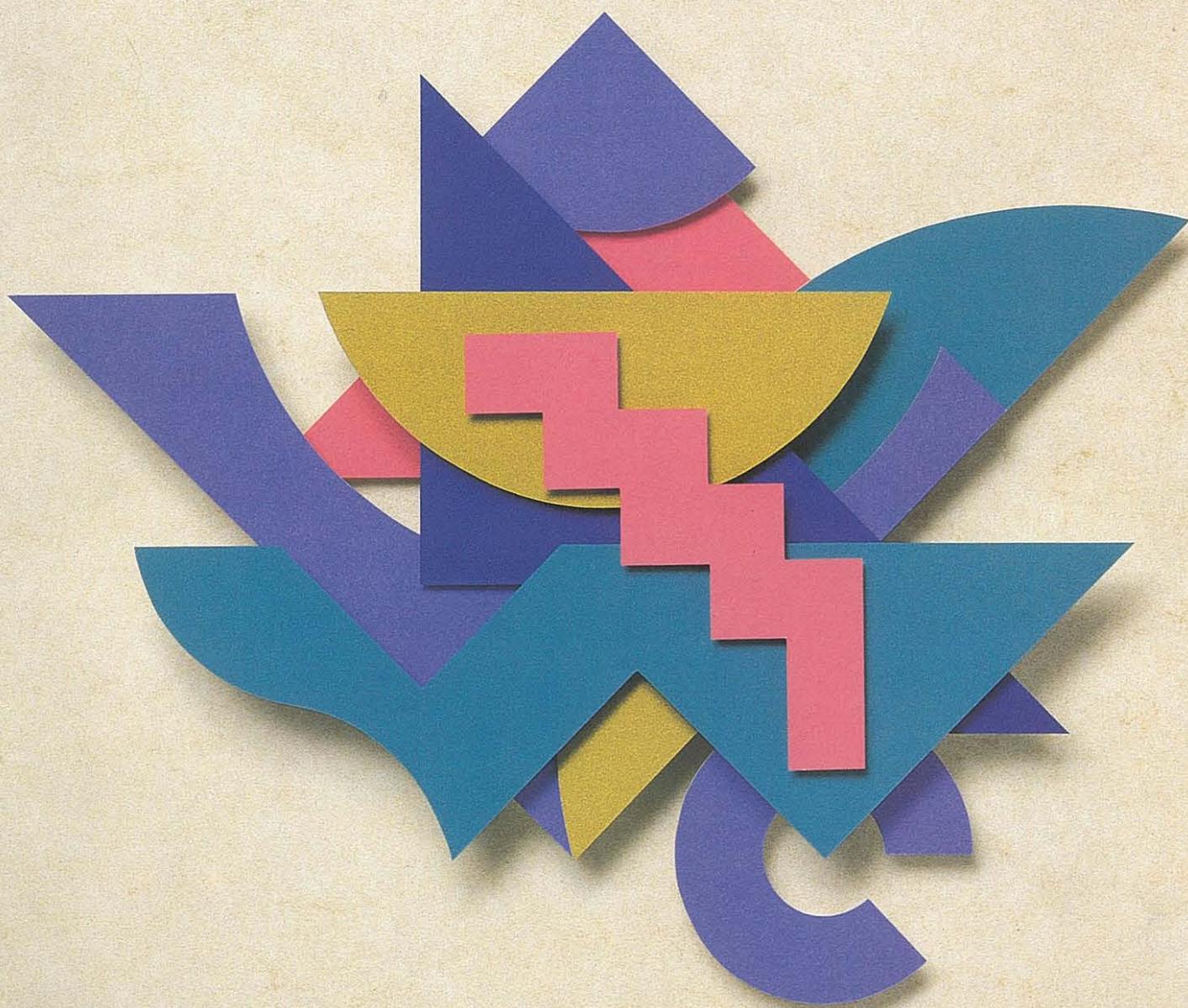


YOKOHAMA

KOHOKU

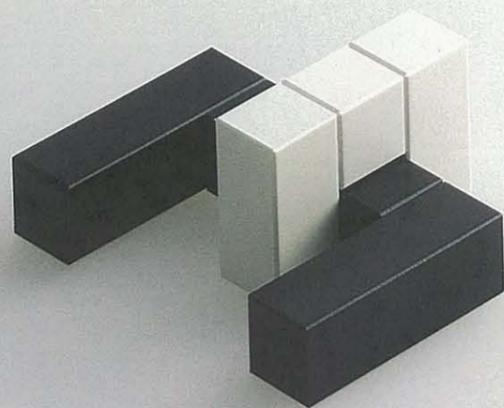
NEW TOWN



横浜

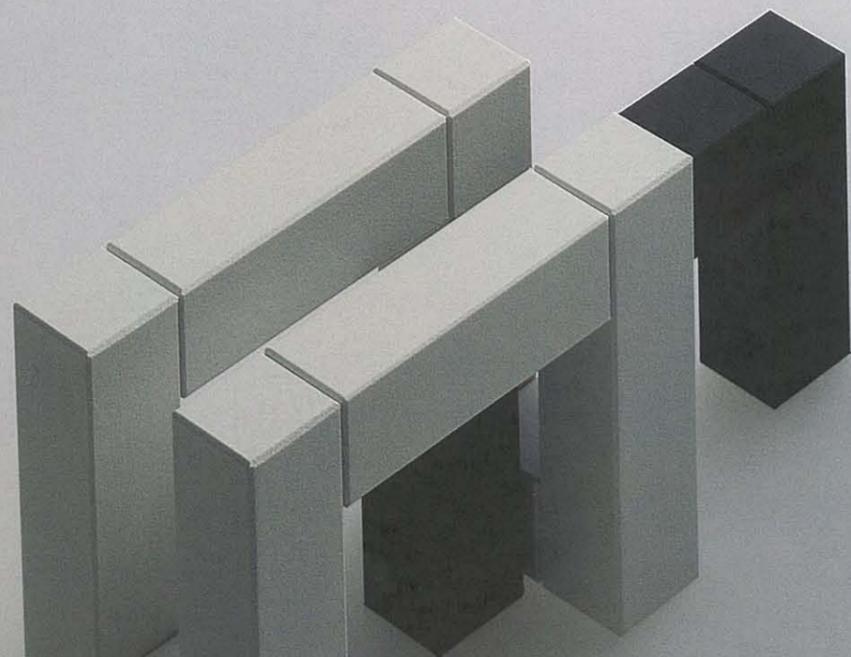
港北ニュータウン

テック
タウン

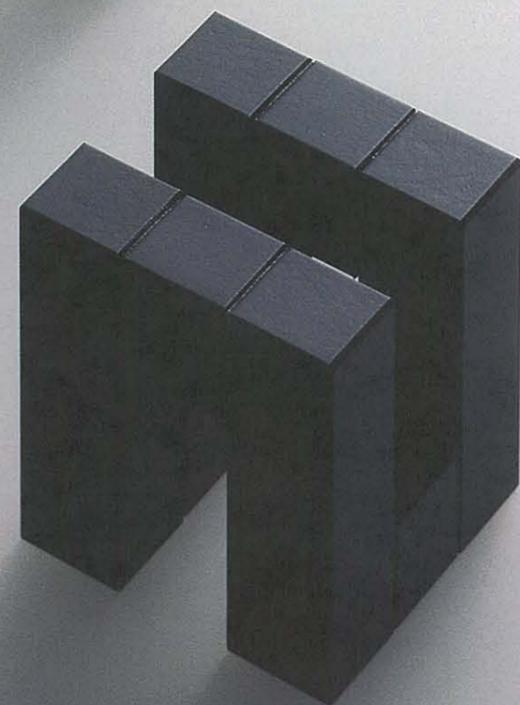
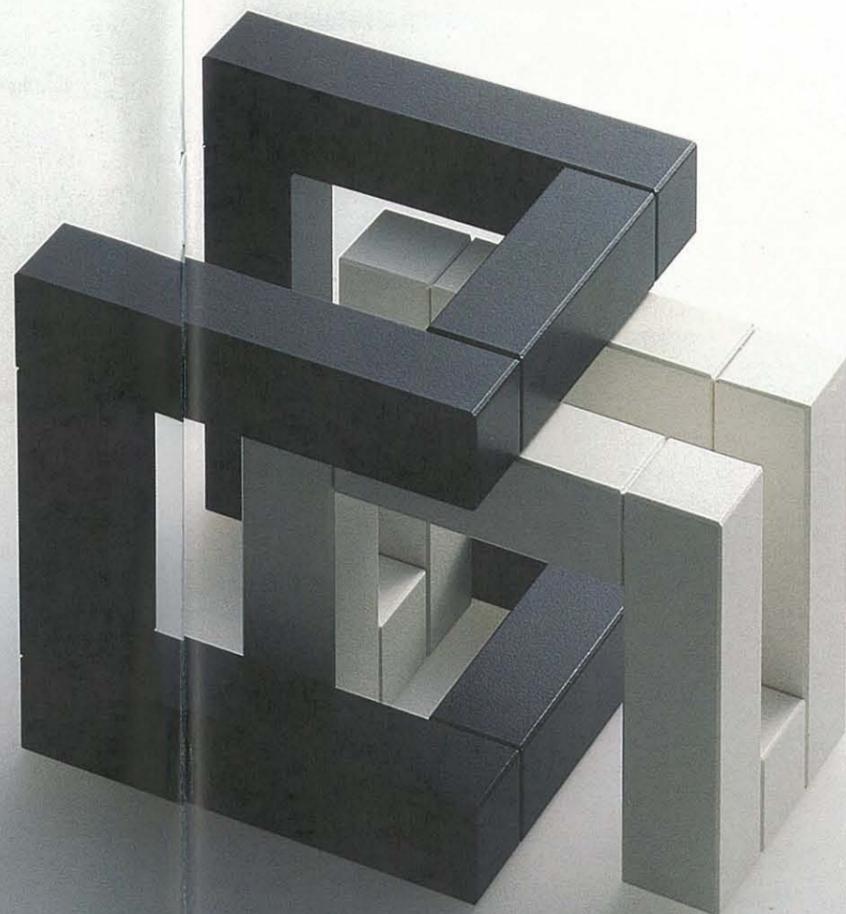


多様な機能をもつ都市

輝いてきた港北ニュータウン



カルチャー
タウン



コミュニティー
タウン



ファミリー
タウン

[首都圏の将来像]

首都圏は、人口及び諸機能の著しい集中により、都市環境や居住環境整備の立遅れ、交通混雑、通勤の遠隔化、公害の発生、身近な自然の喪失等の様々な大都市問題に直面しています。

このような大都市問題を解決し、政治、経済、文化等の諸機能、国際交流の展開の場としての中心的な役割を果たすとともに、人々が健康で文化的な生活を営むことができるような地域形成を目指すために、東京都心部への一極依存構造を是正し、首都圏内の各地域が

機能分担と相互交流を図れる都市構造の形成が考えられています。

そして、第四次全国総合開発計画の中で、横浜・川崎は八王子・立川、大宮・浦和、千葉、土浦・研究学園都市と並んで、業務機能の一部を分担する業務核都市の一つとして位置づけられています。

[横浜市の将来像]

横浜市は、神奈川県を中心都市として、その恵まれた立地条件により、発展してきましたが、依然、東京への依存構造を持っています。

21世紀に向けて、横浜市は、首都機能の一翼を担う首都圏の業務核都市として、広域的な交通体系や情報基盤等の都市基盤施設の整備を進めるとともに横浜市における都心、副都心を強化し、業務・商業、文化などの都市機能の集積を図り、国際文化都市横浜としての主体性の確立を目指しています。

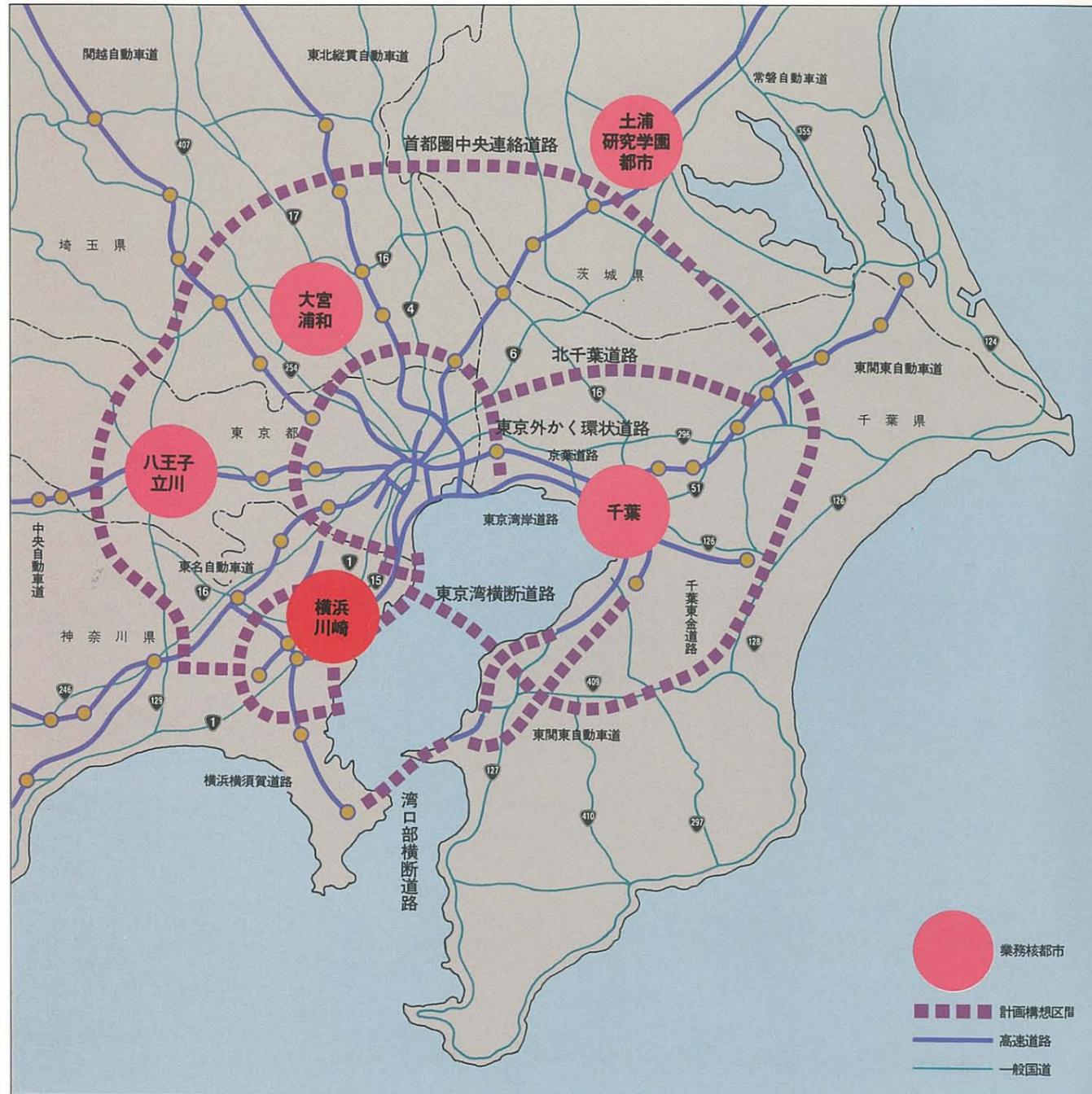
- 横浜新都市計画、港北ニュータウンは、
- 横浜市営高速鉄道3号線、4号線の整備
- 第3京浜道路、東名高速道路とのアクセスの向上

- 外国企業の進出や外国人学校の誘致等による国際性の向上
- 教育施設や研究機関、高次な業務機能等の導入
- 情報化の施策のひとつとしてのCATVの導入
- を図り、また、タウンセンターは、鶴見、上大岡、戸塚駅周辺地区とともに、都心機能を補完する副都心として、
- 業務・商業、文化機能等を計画的に立地誘導して、ニュータウン全体として多機能・複合都市の形成を目指しています。

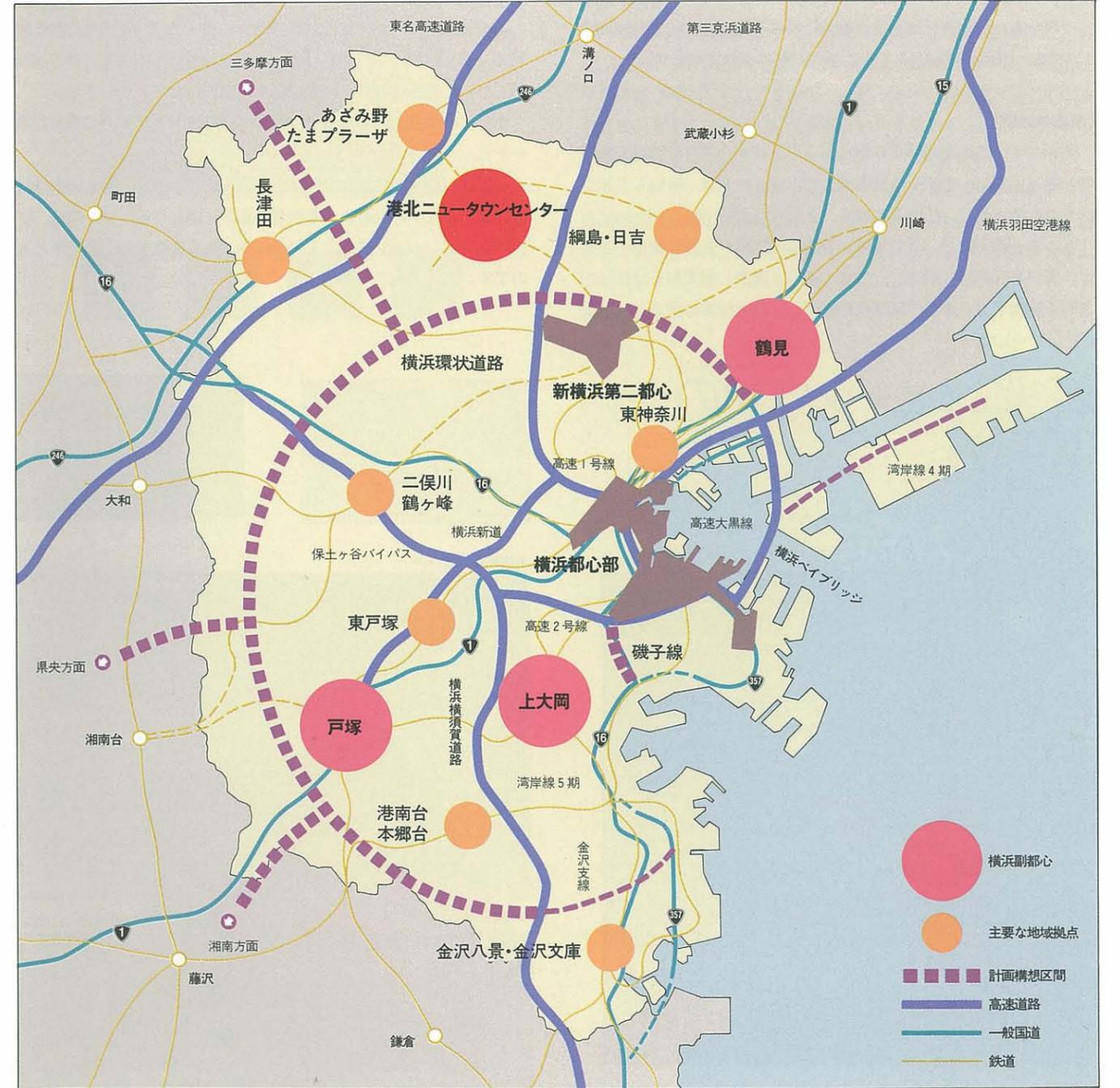
首都圏における 港北ニュータウン



首都圏の将来像



横浜市の将来像



[位置]

港北ニュータウンは、横浜市の中心部から北北西へ約12km、東京都心から南西へ約25kmに位置し、横浜市港北区、緑区の両区にまたがっています。

標高10~80mの小高い丘陵地で、ニュータウンのほぼ中央部に早瀬川が、南部に大熊川が流れ、いずれも鶴見川に注いでいます。

ニュータウンの周辺には、東海道新幹線、JR横浜線、東急東横線、東急田園都市線が走り、東名高速道路、国道246号線、第3京浜道路が伸びており、第3京浜道路の港北ICがニュータウンの南西方約3kmにあります。さらに、第3京浜道路の新港北ICがニュータウンに接して開設される予定です。

[区域]

港北ニュータウンは、公団施行地区、既開発地区、農業専用地区、その他地区の4地区からなる計画面積2,530ha、計画人口30万人のビッグプロジェクトです。

このうち、公団施行地区は土地区画整理事業により、計画面積1,317ha、計画人口22万人として事業が進められています。

[事業の目的]

昭和40年代の高度経済成長期に入って、ニュータウン周辺の乱開発が急速に進み、そのまま放置すれば、ニュータウン地域も当然これらの影響を受け、乱開発されることになるのは明らかでした。

そこで、横浜市は、この地域における乱開発を未然に防ぐとともに、人口を計画的に誘導し、併せて都市と農業とが調和した新しいまちを実現するために『乱開発の防止』、『都市農業の確立』、『市民

参加のまちづくり』を期本理念として港北ニュータウン建設事業を計画しました。

公団施行地区は、まちづくりの基本方針として『緑の環境を最大限に保存するまちづくり』、『“ふるさと”をしのばせるまちづくり』、『安全なまちづくり』、『高い水準のサービスが得られるまちづくり』を設定し、具体的には斜面緑地、寺院、屋敷林等を保存し、それらを核に公園と緑道で構成される緑のネットワークや機能的に配置される歩行者専用道路のネットワークの形成、さらには地区内に6箇所の駅を持つ2本の鉄道、横浜市北部の副都心となるべきタウンセンターを始めとする利用圏に応じた各センター地区の設定など、21世紀を指向した新しいまちづくりを目指しています。

[市民参加のまちづくり]

基本理念である『市民参加のまちづくり』を実現するため、地元と市・公団をつなぐ組織として、港北ニュータウン事業推進連絡協議会があります。

この協議会は、地元4地区の協議会と市・公団・その他の関係機関の4者で構成され、開発計画、造成工事等の事業実施に伴う諸問題について協議を行い、相互の意志疎通がはかられています。

また、市民参加のまちづくりの具体的な成果として申出換地があります。

これは、地元の建設エネルギーを最大限に生かし、将来の生活対策に資するなどのために、権利者の意向に応じてセンター用地、アパート・マンション用地、工場等用地、集合農業用地に換地するものです。

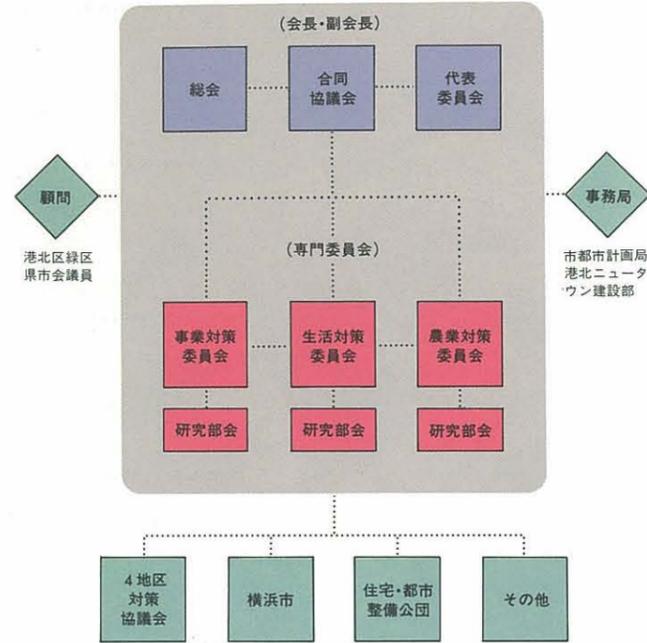
[多機能・複合都市]

港北ニュータウンは、ニュータウン内に居住し、働き、憩い、生活できるそんな多機能・複合都市を目指しています。そして、そのための施設として民間の研究施設、タウンセンターの商業・業務・サービス・文化施設等の立地誘導を計画的に進めています。

民間の研究施設等

人口知能、情報システムなど安全でクリーンな研究所や研修所等

横浜市港北ニュータウン事業推進連絡協議会組織図



を、職住近接の実現やそれらの施設を利用して地域コミュニティの育成が図れるようニュータウン内に広く分散させ、誘致しています。

既に操業を開始している企業が10数社あります。

タウンセンター

横浜市の都心機能を補完する副都心を形成するようデパート、スーパーマーケットなどの商業施設、銀行や企業の支社などの業務施設、病院、CATVスタジオなどのサービス施設、歴史博物館、市民ホール、図書館、スポーツセンターなどの文化施設、さらに、行政施設等の集積が考えられています。

住宅

住宅用地には、計画建設用地と一般住宅地とがあります。

計画建設用地には、公団、公社、市営の公的集合住宅と民間集合住宅とがあり、2住戸単位の専用エレベーター、自由度の高いメニュープラン、勝手口付きのキッチンなど多様なニーズに対応したものが、高齢化社会に対応した都市型ケア付住宅等が供給されています。

公園・緑地

ニュータウン全域および周辺地域を対象とした自然公園的性格の『総合公園』、自然地形や植生を取り入れた『地区公園』・『近隣公園』、子供の遊び場としての『児童公園』が、各々の利用圏に応じて配置されています。このほかにもスポーツレクリエーションが楽しめる『運動広場』があります。

ニュータウンでは、これらの公園・運動広場を始め、集合住宅や施設用地内の保存緑地などのオープンスペースと神社・仏閣などを、歩行者専用道路および緑道で結んだグリーンマトリックスシステムを採用しています。

港北ニュータウンのあらまし

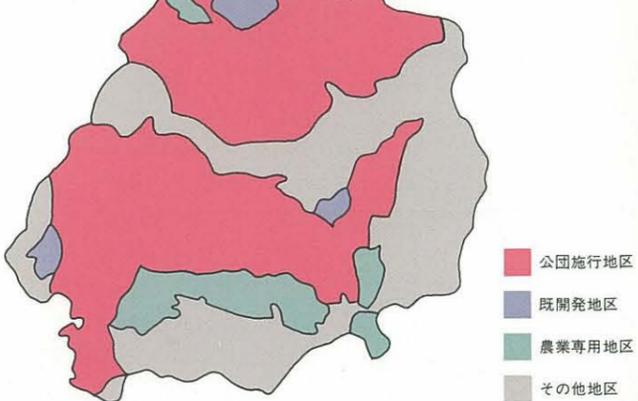
位置図



計画面積と計画人口

地区名	事業の種類	施行主体	計画面積(ha)	計画人口(人)
公団施行地区	土地区画整理事業	住宅・都市整備公団	1,317	220,000
既開発地区	公営住宅建設事業等	市及び民間	67	
農業専用地区	土地改良事業	土地改良組合	230	80,000
その他地区			916	
計			2,530	300,000

地区区分図



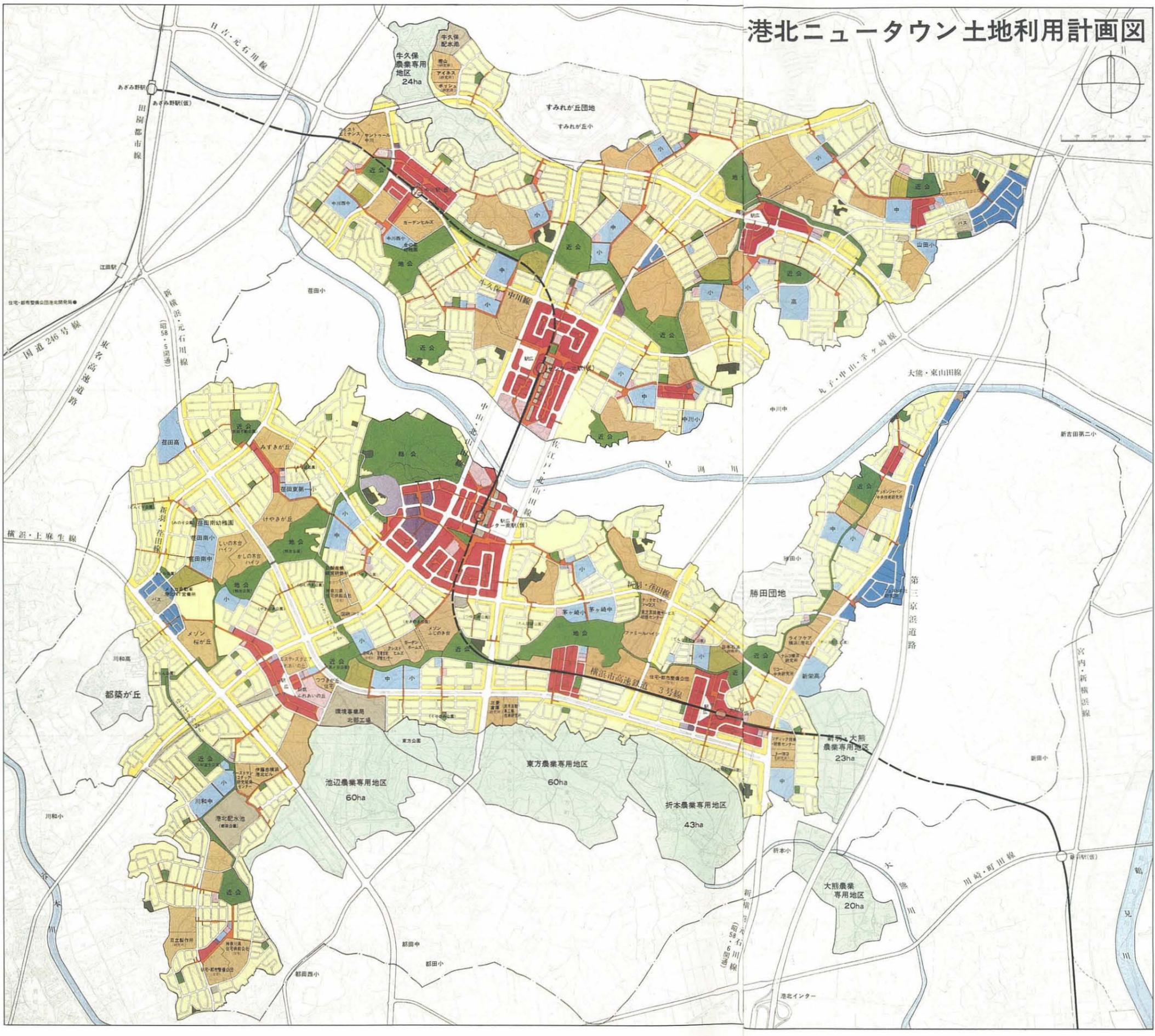
土地利用計画(公団施行地区)

項目	第1地区		第2地区		合計		
	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	
公共用地	道路	116.3	21.2	170.9	22.2	287.2	21.8
	公園・緑地	47.6	8.7	74.2	9.7	121.8	9.3
	河川・水路	0.5	0.1	—	—	0.5	0.1
計	164.4	30.0	245.1	31.9	409.5	31.2	
宅地 住宅用地	計画建設用地	84.4	15.4	100.3	13.0	184.7	14.0
	分譲宅地	30.8	5.6	39.4	5.1	70.2	5.3
	民有地	211.6	38.6	297.0	38.7	508.6	38.6
計	326.8	59.6	436.7	56.8	763.5	57.9	
施設用地	教育施設	28.5	5.2	36.7	4.8	65.2	5.0
	商業その他施設	28.6	5.2	50.1	6.5	78.7	5.9
計	57.1	10.4	86.8	11.3	143.9	10.9	
合計	548.3	100.0	768.6	100.0	1316.9	100.0	

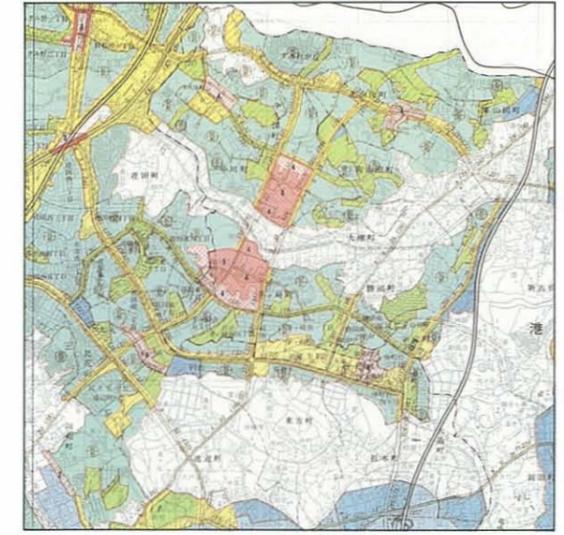
人口計画(公団施行地区)

項目	第1地区		第2地区		合計	
	戸数(戸)	人口(人)	戸数(戸)	人口(人)	戸数(戸)	人口(人)
計画建設用地	5,800	22,000	7,900	29,900	13,700	51,900
分譲宅地用地	1,200	5,200	1,500	6,300	2,700	11,500
公営的施設用地	100	500	300	1,100	400	1,600
民有地	16,200	64,300	23,100	90,700	39,300	155,000
計	23,200	92,000	32,800	128,000	56,100	220,000

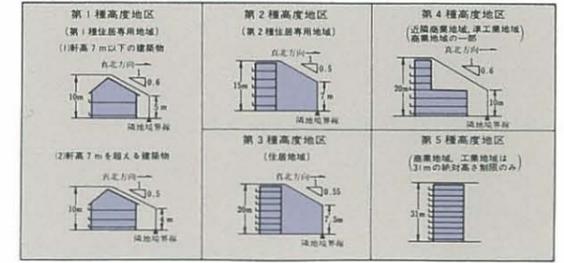
港北ニュータウン土地利用計画図



都市計画図



高度地区		高度地区	
第1種住居専用地域	第1種	準工業地域	第4種
第2種住居専用地域	第2種	工業地域	第5種
住居地域	第3種	工業専用地域	-
2-4 近隣商業地域	第4種	防火地域	路線式 -
④ 商業地域	第4種	防火地域	集団式 -
4-8 商業地域	第5種	準防火地域	-



都市計画の内容は平成元年4月現在

土地利用計画図凡例

道路・駅前広場	歩行者専用道路	公園・緑地・緑道	河川・水路	教育施設	運動広場	医療施設	行政施設	福祉・文化施設	商業施設	都市運営施設	墓地	計画建設用地	一般住宅地	工場用地
---------	---------	----------	-------	------	------	------	------	---------	------	--------	----	--------	-------	------

都市計画決定線は昭和62年2月現在 ※アパート・マンション等用地

[グリーンマトリックスシステム]

港北ニュータウンでは、都市の中の様々な空間とレクリエーション行為とを対応させて、限られた空間の中で最大限、レクリエーション活動ができるようなしくみを計画に取り入れています。具体的には、公園を始め、運動広場・校庭・計画建設用地内の緑地などのオープンスペース、文化財・保存緑地・神社・仏閣・屋敷林・樹林地など、地域の歴史を保つ貴重な緑の資源を、歩行者専用道路および緑道で結びつけながら体系化（グリーンマトリックスシステム）して

います。

これによって、オープンスペースの効果的活用を図るとともに、都市防災対策にも十分役立つよう配慮されています。



鴨池公園

[総合公園]

総合公園は、タウンセンターに隣接して、ほぼニュータウンの中心に配置され、自然地形や植生を生かした、より質の高い緑の環境づくりを目指した自然公園的性格のものとして計画されています。

また、公園内には広場等を設け、タウンセンターからの人の流れを受け止められるよう考えられています。



- 総合公園
- 地区公園
- 近隣公園
- 児童公園
- 緑道
- 運動広場
- 農業専用地区

[地区公園および近隣公園]

地区公園および近隣公園は、総合公園と児童公園の中間的な施設として、それぞれ、ほぼ駅周辺と中学校区に対応して配置され



せせらぎ公園(仮称)

ています。

公園の施設としては、『緑の環境を最大限保存するまちづくり』『ふるさと』をしのばせるまちづくり』という地区全体の開発方針に沿い、自然の地形や既存樹林を生かした『みどり』の環境の場と多目的なスポーツ等のレクリエーション活動に資する芝生広場などが計画されています。

[児童公園]

児童公園は、子供の遊び場として、利用圏に応じて65箇所配置されています。

オープンスペース

鴨池公園



児童公園



川和富士公園

〔緑道〕

緑道は、グリーンマトリックスの骨格となるもので、地域の特色である谷戸景観を活かしながら、各地のオープンスペースを有機的に結んで、みどりのネットワークを作り出すことを目的としています。

緑道の幅員は10mから40mあり、さらに神社・仏閣、計画建設用地などに付属する斜面緑地の部分も含めると、緑の幅が100m以上になるところもあり、総延長は約14.5kmにも及びます。

計画建設用地における斜面緑地は、緑道

と宅地との調和や緩衝空間としての環境保持の機能も果たします。

〔せせらぎ〕

せせらぎは、緑道内に6系統の流路とこれに付帯する池により、『緑』と『水』が一体化した豊かな自然の空間となるよう計画されています。

ゆうばえのみち



せせらぎ

東方公園



農業専用地区

〔運動広場〕

地域の人々のスポーツレクリエーションの場として、公園緑地を補完する運動広場が8箇所計画されています。

〔農業専用地区〕

公園施行地区に接して計画されている農業専用地区は、生産緑地として都市農業の確立を図るとともに、都市における景観的、防災的な役割を持ち、歩行者専用道路などで公園施行地区と一体化するよう計画されています。



ゆうばえのみち



ささふねのみち

交通



[鉄道]

ニュータウン内には、横浜市営高速鉄道3号線（横浜～新横浜～ニュータウン～田園都市線あざみ野）、同4号線（東横線日吉～ニュータウン～横浜線方面）の2路線、6駅が計画されています。



横浜市営高速鉄道

[歩行者専用道路]

歩行者専用道路は、日常生活につながりのある施設、すなわち、小・中学校、公園、センター、バス停留所、鉄道駅など住宅地をきめ細かく結び、主要地点には広場を設け、また適宜すみ違ひ、折れ曲がりの技法を用いて、自動車交通から分離された安全で快適な歩行者空間をつくり出しています。

独立住宅地の区画道路と歩行者専用道路が並行する部分の一部について、これらの境界をなくし一体化し、人と車が共存した『みち空間』をつくり出しています。

コミュニティ道路においては、車道を植栽等により緩やかに蛇行させたり、舗装材を変えることにより、車のスピードを抑制し、人々のふれあいのある環境を演出しています。

[駅前広場]

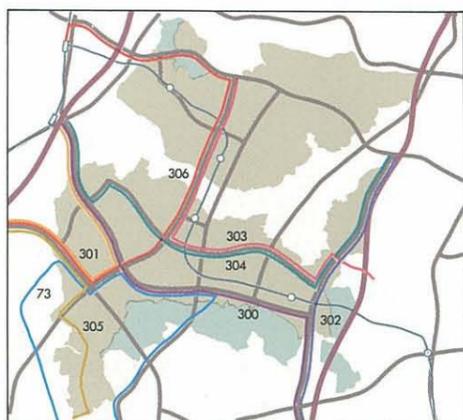
駅前広場は、32,000～124,000人の乗降客数に対応して4,000～14,000㎡のものが

[コミュニティ道路]

コミュニティ道路は、新しい試みとして

6箇所計画されています。

駅前広場の空間構成は、歩行者、自転車利用者、車利用者等の利便性に配慮しながらつくられます。



[バス]

バスサービスの基本的な考えとしては、ニュータウン内の鉄道駅の駅勢圏を配慮しながら計画されています。現在、バスは8つの系統により運行されています。



301系統

系統	運行区間
300	新横浜駅前……江田駅
301	市ヶ尾駅東口……江田駅
302	新横浜駅前……北川橋南
303	新横浜駅前……北山田
304	北川橋南……江田駅
305	市ヶ尾駅……中山駅
306	市ヶ尾駅……あざみ野駅
73	中山駅……中山駅（循環）

歩行者専用道路



[道路]

ニュータウンと周辺を結ぶ道路としては、東西に3本、南北に5本の都市計画道路が計画されており、既設幹線道路（東名高速道路、第3京浜道路、国道246号線など）と結ばれ、広域的な道路網を構成しています。

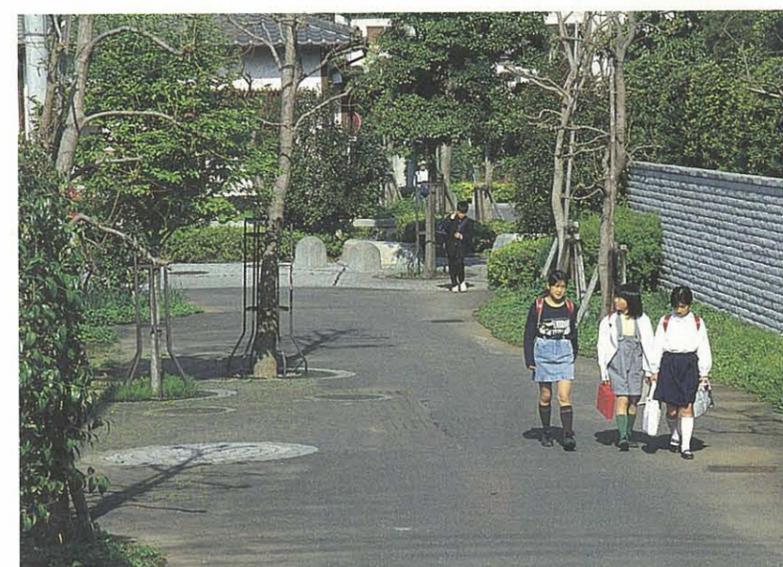
ニュータウン内の交通は、通過交通を受け持つ幹線道路（幅員18～32M）と、サービスを目的とした区画道路（幅員6～9M）等により計画的に処理されています。

区画道路は通過交通が入り込まないよう原則としてU字型の道路パターンとし、また幹線道路は堀割式にするなど、住区内環境の保全を重視して計画されています。



新横浜・元石川線

コミュニティ道路



住宅

住宅用地には、計画建設用地と一般住宅地とがあります。計画建設用地には、公団、公社、市営の公的集合住宅や民間集合住宅とが建設されます。また、一般住宅地には、一戸建住宅やアパート・マンション等が建ち並びます。

計画建設用地の公的集合住宅

公的集合住宅地は、主として斜面上の保存樹林地を含んだ形で緑道沿いの台地上に配置されており、保存樹林地と建物を融和させることによって緑道景観を豊かなもの

にするとともに、自然の環境が享受できるよう計画されています。

また、多様化する住形式に対応した、特色のある住宅地の形成を図っています。

公的集合住宅の建設状況

団地名	建設主体	戸数	入居開始時期
けやきが丘	公団	440戸	昭和58年8月
みずきが丘	公団	388戸	昭和58年8月
かしの木台ハイツ	県公社	266戸	昭和58年8月
しいの木台ハイツ	市公社	310戸	昭和58年8月
メゾン桜が丘	公団	379戸	昭和61年5月
つづきが丘	市営	120戸	昭和61年5月
メゾンふじのき台	公団	(626戸)*	平成元年3月
クレストヒルズ	市公社	144戸	平成元年7月
ウェストエミナンス	市公社	93戸	平成2年3月
サントウール中川	公団	(641戸)*	平成2年3月

* ()内の数字は全体建設予定戸数

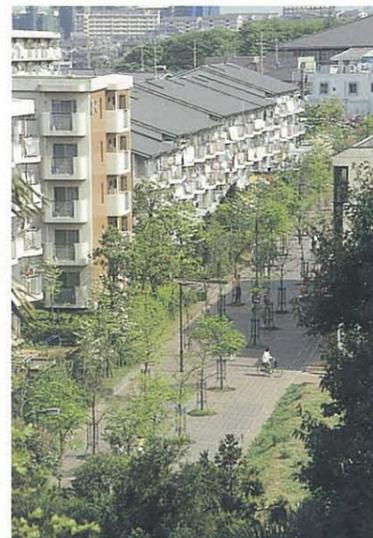
住宅



メゾンふじのき台



メゾン桜が丘



かしの木台ハイツ

みずきが丘



〔一般住宅地の一戸建住宅、マンション等〕
一般住宅地には、幹線道路沿いで主としてアパート・マンションが建設される地区と独立住宅地区とがあります。



独立住宅地区は、主として一戸建住宅が建設される地区であり、通過交通が流入しないよう工夫された道路パターンなどにより、良好な居住環境が確保できるよう計画



されています。さらに、小画地に分割されないよう従前の小規模宅地を除き、原則として180㎡以上の画地を供給する計画になっています。



エステ・スクエアふれあいの丘

〔計画建設用地の民間集合住宅〕

民間活力の導入による集合住宅の建設は、公的集合住宅を補完しながら多様な住宅を供給することを目的としています。

民間活力導入第1号には、2住戸単位の専用エレベーターや勝手口付きのキッチンなどを備えた『エステ・スクエアふれあいの丘』(昭和62年8月入居開始、198戸)と高齢化社会に対応した都市型ケア付住宅の『ライフケア横浜・港北』(昭和63年3月入居開始、443戸)とがあります。



ライフケア横浜・港北

エステ・スクエアふれあいの丘

[小学校]

小学校は、22校計画されており、現在、山田小学校、中川小学校、荏田東第1小学校、荏田南小学校、茅ヶ崎小学校の5校が開校されています。平成2年春には中川西小学校が開校される予定です。

小学校区は、通学距離、通学路などを考慮して設定されています。

[中学校]

中学校は、12校計画されており、現在、川和中学校、茅ヶ崎中学校、荏田南中学校

の3校が開校されています。また、中川西中学校が平成2年春に開校される予定です。中学校区は、ほぼ2つの小学校区で構成されています。

[高等学校]

高等学校は、3校計画されており、現在、荏田高等学校、新栄高等学校の2校が開校されています。

[幼稚園]

幼稚園は、現在、荏田南幼稚園、港北幼

稚園の2園が開園されており、平成2年春には第一地区の中川1丁目に、金の星幼稚園が開園される予定です。



- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 幼稚園



教育

小学校



中川小学校



荏田南小学校

高等学校



新栄高等学校



荏田高等学校

幼稚園



荏田南幼稚園



荏田東第1小学校



荏田南小学校



中川小学校

中学校



荏田南中学校



荏田南中学校



川和中学校

[センター]

センターには、ニュータウンと横浜北部圏域を対象としたタウンセンター、4つの鉄道駅を中心にした駅前センター、日常生活に対応した近隣センターとがあります。

[タウンセンター]

タウンセンターは、第1地区と第2地区にまたがって2つの鉄道駅を中心に配置されています。これは、タウンセンターの一体化と両地区の均等性を考慮し、計画されたものです。

タウンセンターは、横浜都心臨海部および新横浜地区等の都心を補完する核として、単に商業機能だけではなく、業務・サービス・文化等の高度な都市機能の集積を図り、横浜市の副都心となるよう計画されています。

[駅前センター]

駅前センターは、駅勢圏を対象とするサービスを行う生活センターとして、ニュータウン内に計画されている6箇所の鉄道駅のうちタウンセンターの2駅を除く他の4

駅を中心に計画されており、現在、第2地区の葛が谷に駅前センターの一部が開設されています。

商業地の性格としては、駅前機能に都市機能（郊外の駅前商業ゾーンと同じ性格）を持つ商業ゾーンを目指し、中規模の量販店を商業核とする郊外型ショッピングセンターを形成する計画です。

[近隣センター]

近隣センターは、タウンセンター、駅前センターの利用圏からはずれた住宅につい

て日常の買い物等の利便性を確保するため、6箇所が計画されており、現在、荏田近隣センターが開設されています。

荏田近隣センターには、スーパーマーケット、戸割店舗、診療所3箇所、郵便局、派出所等が立地しています。



- タウンセンター
- 駅前センター
- 近隣センター

センター

荏田近隣センター



川和駅前センター



荏田近隣センター

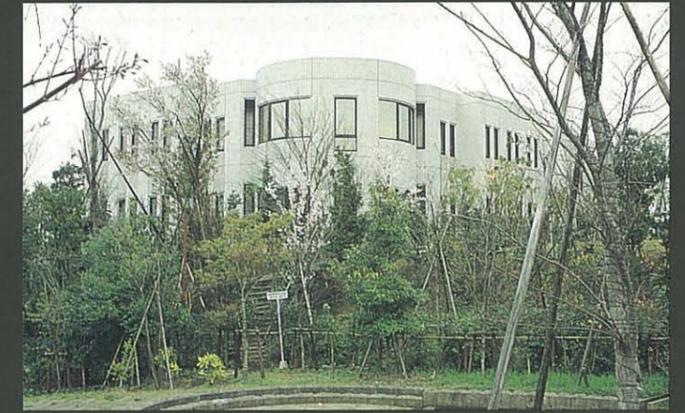
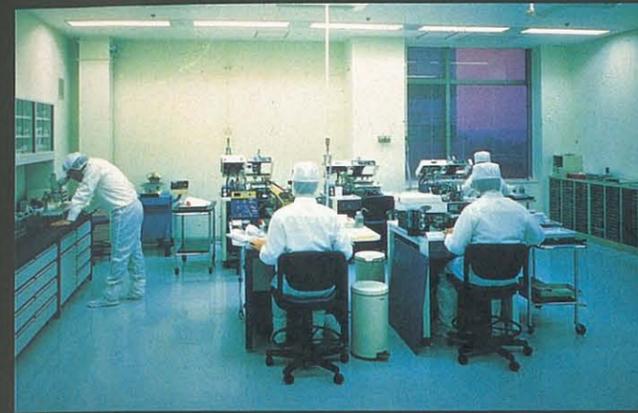
[研究施設等]

港北ニュータウンでは、ニュータウンの立地条件を十分に生かしながら、多機能・複合都市を目指して、安全でクリーンな研究・研修施設等を計画建設用地に計画的に誘致しています。

ニュータウンの立地条件としては、横浜都心および東京都心へ30分圏にあり、東海道新幹線新横浜駅、東名高速道路川崎IC、第3京浜道路港北ICおよび建設中の新港北ICが至近にあります。このことより、自社の他機関との相互連絡や他の研究機関

等との情報交流、情報収集が容易に行える条件を備えていると言えます。

また、就業者にとっても通勤の利便性が高く、緑が多い良好な就業環境がととのっています。



研修所

研究施設等



研究所



研究所

[文化・社会教育施設]

文化・社会教育施設としては、埋蔵文化財や郷土資料の保存展示等を行う歴史博物館、図書館、市民ホール、スポーツセンター、地区センターなどが計画されています。

[社会福祉施設]

社会福祉施設としては、社会福祉センター、保育所などが計画されています。

[余熱利用施設]

北部工場のごみ焼却によって発生する熱

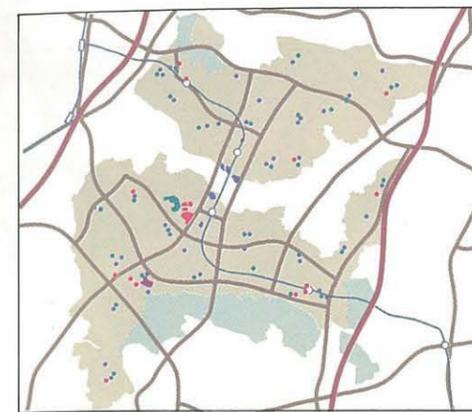
エネルギーを有効に利用した余熱利用施設が都筑ふれあいの丘に開設されています。

余熱利用施設は、地区センター、温水プール、障害者研修保養センター、老人福祉センターが併設された複合施設です。



余熱利用施設

その他の施設



- 福祉・文化施設
- 余熱利用施設
- 医療施設
- 行政施設

[医療施設]

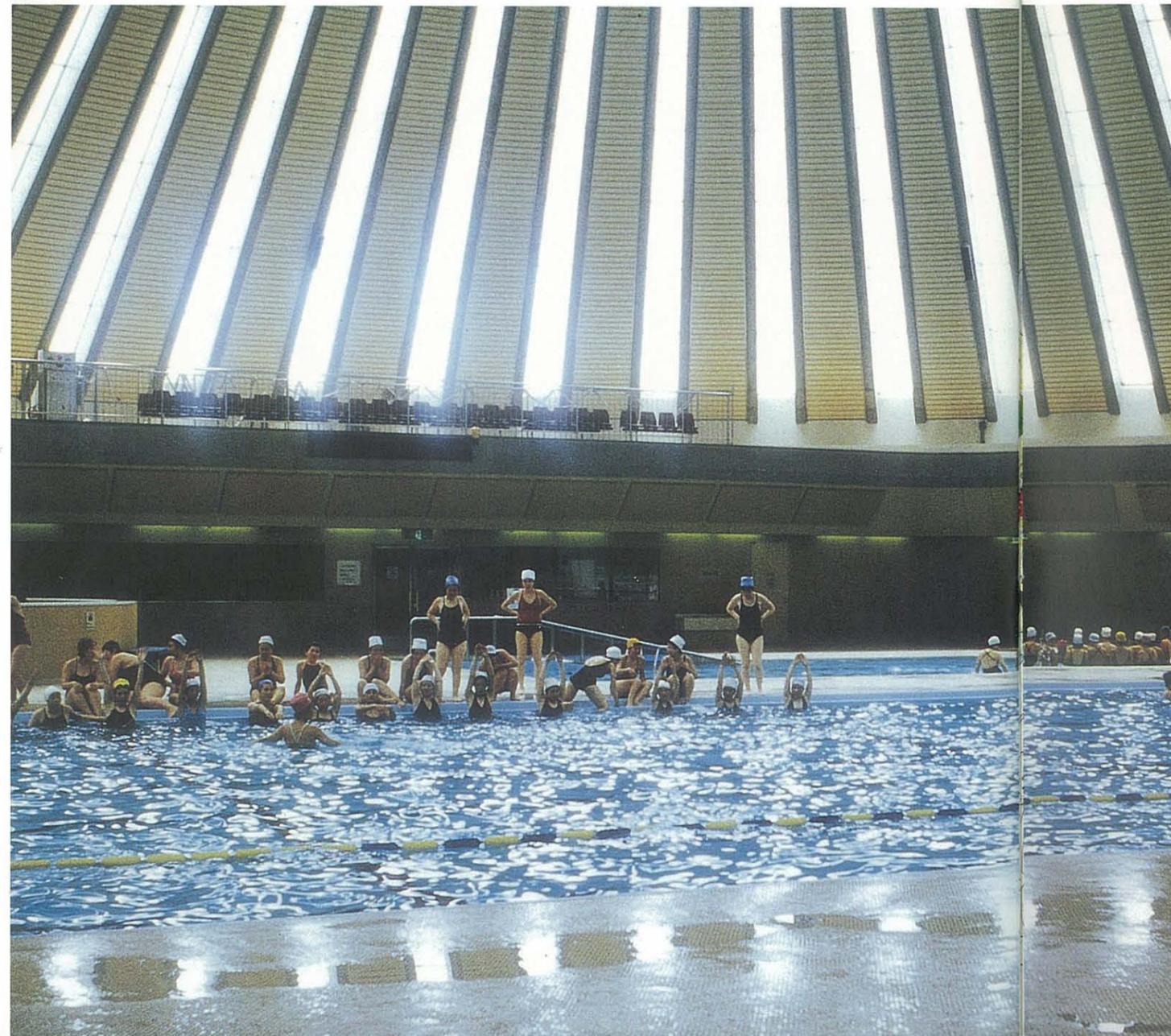
医療施設としては、タウンセンターに総合病院、駅前センターおよび近隣センター等に診療所が計画されています。現在、荏田近隣センターに外科、内・小児科、歯科の3診療所が開業されています。

[行政施設]

行政施設としては、タウンセンターの丘のセンター内に行政サービスコーナー、荏田近隣センターに荏田東郵便局がオープンしています。そのほか各種行政施設、警

察署、郵便局などの立地が予定されています。

北部プール



外科診療所



内・小児科診療所



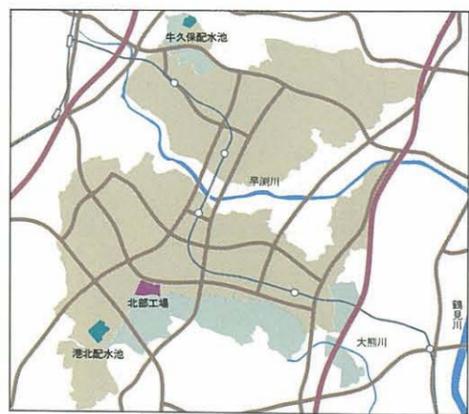
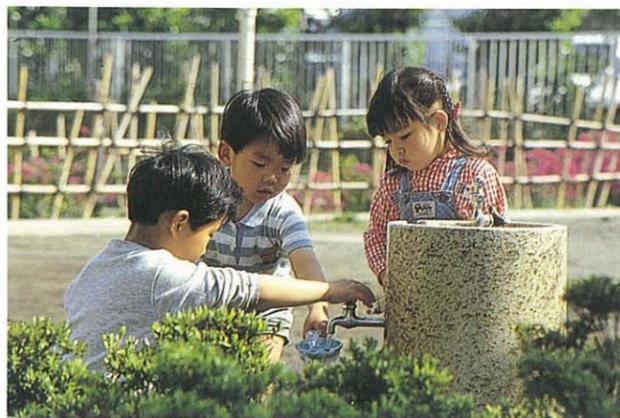
荏田東郵便局



歯科診療所



丘のセンター



供給処理

港北配水池



[上水道]

上水道は、第1地区が地区内の横浜市営水道牛久保配水池、第2地区が同港北配水池から給水されています。

緑下水処理場



[下水道]

下水道は、分流式で、雨水はニュータウン関連河川に放流し、汚水は地区外の港北、緑両下水処理場で処理されています。

関連河川は、鶴見川、早瀬川、大瀬川で、ニュータウン事業に並行して改修が進められました。



鶴見川

北部工場

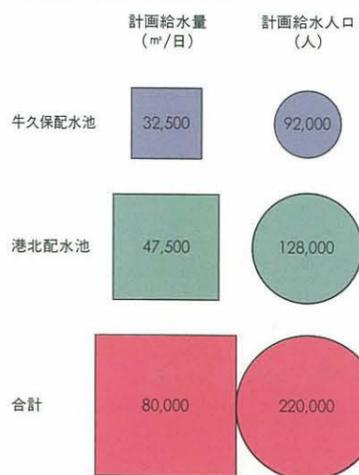


[廃棄物処理]

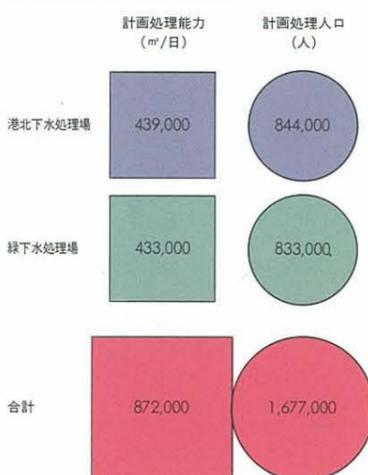
地区内で発生するごみは、最新技術の公害防止設備を備えた北部工場で処理されています。

北部工場の計画処理能力は1日当たり800トンで、ごみ焼却に際して、ガス冷却用ボイラーから発生する蒸気および蒸気タービン発電機による発生電力は、隣接する余熱利用施設の冷暖房、温水プール、浴室等で有効に利用されています。

計画給水量および計画給水人口



計画処理能力および計画処理人口



[ガス]

ガスは、東京ガス㈱により11,000kcalの都市ガスが供給されています。

[電気]

電気は、東京電力㈱により需要に応じて特別高圧、一般高圧、低圧が供給されています。

[電話]

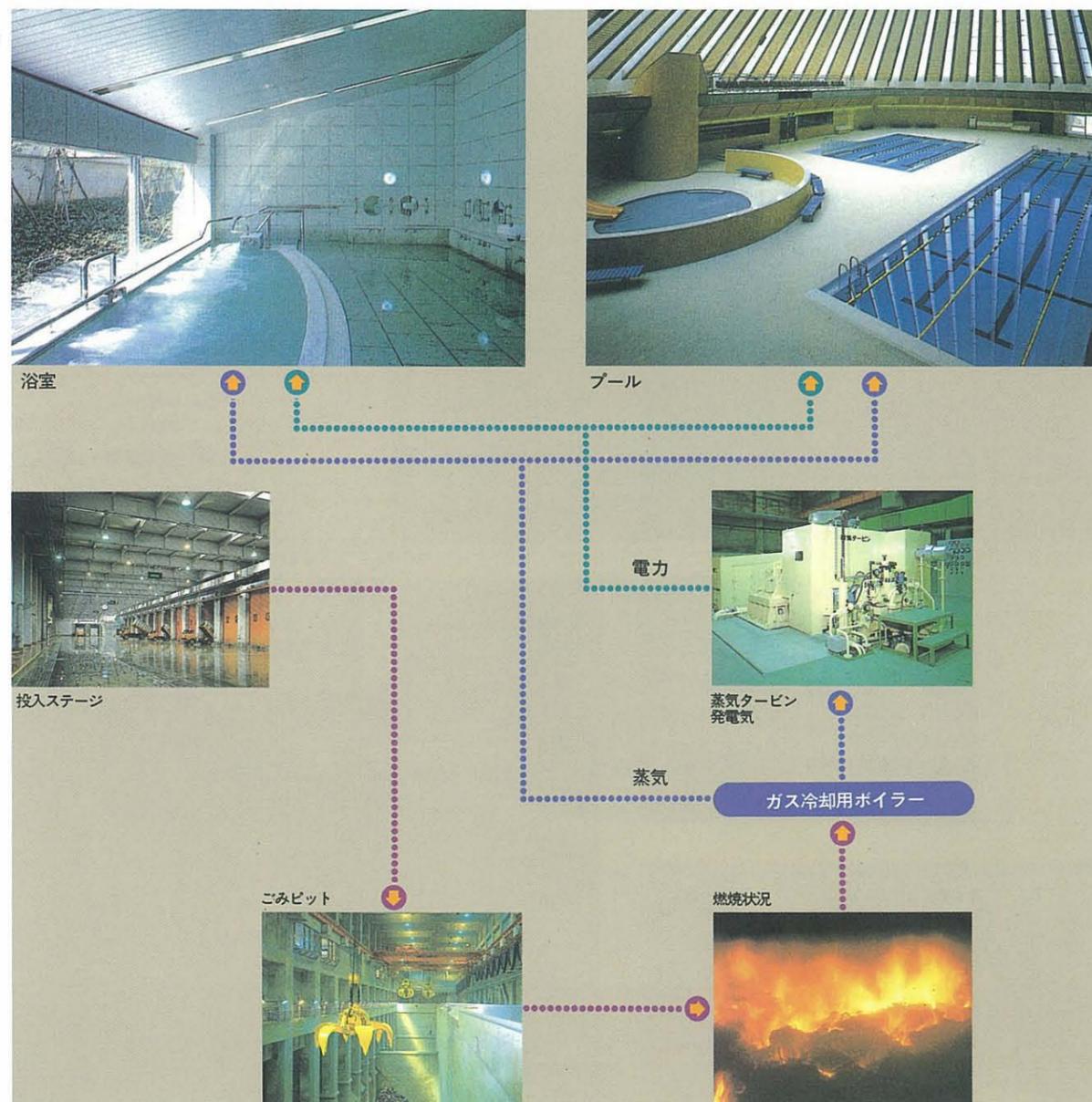
電話施設は、NTT ㈱により整備されています。



[CATV(ケーブルテレビジョン)]

港北ニュータウンにおいては、高度情報化社会に対応するため、CATVを導入して行く予定です。

北部工場と
余熱利用のしくみ



【街づくりのフォローアップシステム】

港北ニュータウンでは、計画の理念、方針を継承し、良好な環境の魅力ある街づくりを総合的、長期的に進めて行くため、街づくりの指導・調整を行う基盤整備後のフォローアップシステムが用意されています。公的建築物の指導・調整

計画建設用地や各種公益的施設は空間としての質感も大きいため、地区空間を形づくる重要な要素となります。このため、公的建築物の建設に際しては、計画・設計指針を建設主体に示し、都市デザインの指

導を行い、地区にふさわしい、またニュータウンのシンボルとなり得るような施設の実現を目指しています。

民有地における街づくり誘導

港北ニュータウンの換地は、多様な土地利用を計画的に誘導し、その実現を図るため、地権者より申し出調査を行い、その土地利用目的に応じた換地計画を行いました。

その中のひとつである各センター地区は、街の熟成に合わせて、地権者の参画のもとに全体の街づくりの整合を図りつつ、商業施設等の計画・設計に関して都市デザイン

上の指導を行い、利便性の高い魅力あるセンターの実現を目指しています。

また、アパート・マンション地区、工場・倉庫地区や一般住宅地などにおいては、住民の自主的努力によって、住み易い良好な環境の街づくりを実現するため、建築協定の締結を目指し、現在、4つの地区で締結されています。さらに、地区計画についても検討が進められています。

【歴史の散歩道】

ニュータウン内には、多数の文化財や神社・仏閣などが昔の面影を遺しながら散在しています。例えば、せせらぎ公園(仮称)内に移設された古民家や近隣公園に隣接した自性院などがあります。これらは、歩行者専用道路によりネットワーク化が図られており、歴史の散歩道として計画されています。

【ニュータウン内の祭り】

ニュータウン内には、それぞれ趣の異なる

昔からの地域の祭りがいくつかあります。また、新しく『港北ニュータウンまつり』も昭和60年から開催されるようになりました。これは、港北ニュータウンの街づくりを目で見、肌で感じてもらうとともに新しいふるさとづくりの契機になることを目的に始められたものです。



港北ニュータウンまつり

街づくり



【地区計画(案)の概要】

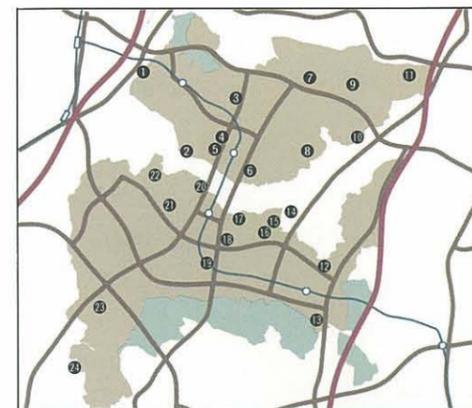
近隣センター周辺地区における地区計画(案)の例としては、次のようなものがあります。

事項	概要
建築物等の用途の制限	建築基準法別表第二(イ)項に掲げる建築物以外の建築物は建築してはならない。
建築物の延べ面積の敷地面積に対する割合の最高限度	10/10
建築物の建築面積の敷地面積に対する割合の最高限度	4/10
建築物の敷地面積の最低限度	150㎡以上とする。
壁面の位置の制限	道路境界線からの距離の最低限度 敷地境界線からの距離の最低限度
	計画図に表示する壁面線を越えて建築してはならない。 1m以上とする。
建築物の高さの最高限度	12m(軒高10m)
建築物等の形態又は意匠の制限	周囲への景観的調和に配慮したものとす。
かき又はさくの構造の制限	生け垣あるいはフェンス等の開放性のあるものとす。



新羽・荏田線沿いの街並み

歴史と暮らし



- ① 老馬不動
- ② 東善寺
- ③ 長徳寺
- ④ 杉山神社
- ⑤ 慈眼寺
- ⑥ 大塚歳勝土遺跡
- ⑦ 山田富士
- ⑧ 大善寺
- ⑨ 長泉寺
- ⑩ 山田神社
- ⑪ 観音寺
- ⑫ 古民家
- ⑬ 長福寺
- ⑭ 最乗寺
- ⑮ 寿福寺
- ⑯ 茅ヶ崎貝塚
- ⑰ 茅ヶ崎城址
- ⑱ 正覚寺
- ⑲ 自性院
- ⑳ 杉山神社
- ㉑ 心行寺
- ㉒ 法道寺
- ㉓ 川和富士
- ㉔ 妙蓮寺



自性院



古民家

港北ニュータウンまつり



国 神奈川県

Table with columns for years 1965-1976 and rows for events in Kanagawa Prefecture. Includes dates like 11月 and 7月, and events like '建設省「宅地開発5箇年計画」を公表'.

横浜市 地元

Table with columns for years 1965-1976 and rows for local events in Yokohama. Includes dates like 2月 and 7月, and events like '市、6大事業を発表'.

公園

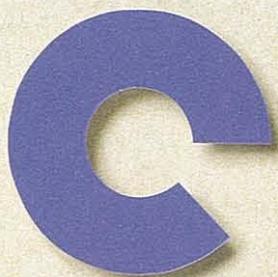
Table with columns for years 1965-1976 and rows for park-related events. Includes dates like 11月 and 9月, and events like '港北ニュータウン開発に同意'.

社会

Table with columns for years 1965-1976 and rows for social events. Includes dates like 3月 and 2月, and events like 'ソ連宇宙飛行士レオノフ中尉、初の宇宙遊泳成功'.

Table with columns for years 1977-1989 and rows for events from 1977 to 1989. Includes dates like 3月 and 6月, and events like '第一地区都市計画決定変更(1変)'.

年表



 住宅・都市整備公団 港北開発局

〒225 横浜市緑区荏田北1-5-5 Tel.045-943-7325

財団法人 住宅共済会

〒102 東京都千代田区九段北一丁目19番6号

